

早稲田商学第 460 号  
2021年3月

## 消 息

### 佐々木宏夫先生のご退職にあたって

佐々木宏夫先生は 2021 年度で早稲田大学を選択定年により退職されます。私が商学部に赴任して以来 20 年以上、同じ経済学系列の尊敬する先輩教員として、とても親しくさせていただいております。研究室も近く、いつも「高瀬先生いる？」とあって、私の研究室に入ってこられて、研究、教育、大学業務など、日常的に話し合い、時には議論してきました。知識欲の塊で、社会の新しい事象に常にアンテナを張り巡らせ、「高瀬先生知ってる？」と話題を振ってきました。おそらく、同じ職場で大学人としての『佐々木宏夫』を紹介するのは、僭越ながら私が適任と自負しております。ただし、これからの記述は主に私の経験と記憶によるもので、不正確な情報や多少の事実誤認は、どうかご容赦いただければと存じます。

佐々木先生を一言で表すと、研究・教育・教務全ての面で成功した、大学人としてのスーパースターです。最初は研究面です。彼は理論経済学分野トップの国際ジャーナルに掲載実績があり、研究者として、現在の商学部における学術的躍進の嚆矢といえるかもしれません。ただし、佐々木先生は研究自体を重要視し、結果や本数はそれほど顧みない性格のようです。彼は、最近、内生的成長理論の貢献でノーベル経済学賞を受賞した、ポール・ローマー先生のおそらく最初のお弟子さんです。ローマー先生が大活躍する前、当時まだ准教授であったにも関わらず、佐々木先生は主査として指導を受ける決断をしました。博士の主査は教授にお願いすることが定石であるにもかかわらず、地位より研究テーマと将来性を選択したようです。お2人で書いた内生的成長理論の極初期のワーキングペーパーがありますが、結局未刊のままです。また、マッチング理論において、現在でも多数引用されている彼の論文も、ワーキングペーパーのままのものがあります。この辺りにも、研究内容重視の性格が表れているようです。

次は教育面です。佐々木先生は経済学専門の学生用月刊誌「経済セミナー」連載を纏めた「情報の経済学」や「入門ゲーム理論」を代表として、有用かつ分かりやすいベス

トセラ教科書を発行し、日本の経済学教育に大きく貢献しました。また、商学部のゼミにおいて、優秀な研究者の養成を目的として、少数精鋭のゼミ生を手取り足取りで数学の基礎から教え込み、世界に通用する研究者を育て上げました。そして、基幹理工学部・研究科（数学応用数理専攻）において、早稲田の理工系で最初の経済学ゼミを開講し、理系の学生にも経済学を広め、研究者養成に努めました。結果として、現在、海外の一流大学の博士課程に進学した4人を含めて、10人近くの前途有望な若手経済学者を輩出し、そのうち1人は経済学最高峰ジャーナルに論文を掲載するまでになりました。

当初、商研の大学院生や商学部の若手教員のための定期的な発表の場はなく、「高瀬先生、そろそろ商学部でも週1でセミナーを開催しましょうか。」という提案がありました。限られた予算の下、産業経営研究所分科会と共催で、毎月2回から4回開催するセミナーがスタートしました。学期末には大学院生、それ以外は、学内外の研究者が発表し、研究フロンティアの促進と共有に大きく役立ちました。これが現在まで継続している金曜セミナーで、商学部・商研におけるこのような定期的な研究会・講演会シリーズの走りとなりました。当初から、経済学のミクロかマクロ、あるいは、理論か実証など限ることなく、幅広い研究テーマの研究を対象として、新進気鋭の若手研究者から分野の第一人者まで招聘しました。分野横断的な最先端研究にも注目し、テーマは経済学に関連する、経営学や会計学、時には、国際関係、政治学、法学、最近では、文化人類学や進化論まで広がっています。

この動きが商学部教員を中心とした大型科学研究費補助金の申請・採択へとつながります。学内で政治経済学部を中心に社会科学の大きな公的外部資金獲得が始まった時期でもあり、「これから商学部にも優秀な専任教員を呼んでくるためにも、そして、商学部でも大きい資金が取れることを学内外に見せつけるためにも、挑戦してみよう。」という意気込みでした。佐々木先生を代表に、商学部教員を分担者として、2回目の挑戦で基盤研究A「グローバル経済におけるビジネスと会計制度の変化に関する経済学的研究」を獲得することができました。資金的基盤が充実し、研究・教育の両面で大きな躍進となり、商学部での大型外部資金獲得成功例の1つとなりました。

引き続き、佐々木先生が「高瀬先生、仮想通貨って知ってる？ 発想の原点はミクロネシアのヤップ島にある石貨なんだよ。」「仮想通貨はマイニングとブロックチェーンにより・・・」と何度も研究室に来るようになりました。気が付いたら、佐々木先生を代表

者として、学内外から経済学を中心としながらも、文化人類学、進化生物学、情報工学など分野横断的な分担者を組織して、ミクロネシアを主なフィールドにして2回目の基盤研究A「太平洋島嶼国の貨幣と市場制度の生成と発展に関する研究：理論と実験」を獲得しました。ミクロネシア連邦の主要4州の現地調査を終え、昨年のグアムでの経済実験を実施し、現在、ミクロネシアでの現地調査や早稲田大学での実験など非常に忙しくしています。「研究者として最後にもう一花咲かせたい。」これが、佐々木先生が選定年を決断した大きな理由となりました。

佐々木先生は信州大学理学部数学科出身で、一橋大学大学院経済学研究科に進学しました。日本を代表する、世界的な近代経済学者であり、非常に厳しい指導で知られた二階堂副先生の数少ないお弟子さんの1人です。佐々木先生は二階堂先生から一般的均衡理論を含む、数理経済学の神髄を叩き込まれ、後年、二階堂先生の残された原著などの資料の編纂を託されました。当時の世界で名立たる経済学者間の交流の資料を整理する過程で、戦後の経済学説史的な知見を蓄積することになり、現在、経済学説史の研究も進め、商学部で授業も担当しています。佐々木先生は、それ以前より、いわゆる右だけでなく左の経済学にも造詣があり、経済セミナーにマルクス生誕100周年記念の対談記事「されどマルクス」が掲載されています。

最後は大学業務の面です。佐々木先生が教授会などで発言するときは、最近では穏やかな感じですが、昔は舌鋒鋭く、熱心に話され、論理展開は他の追随を許さず、相手に反論の余地を残さない、厳格そのものでした。彼が熱くなる根底には、強烈な正義感、言い換えれば、判官鼻根があり、浪花節でいつも立場の弱い方に立ちます。個人の地位や名誉に汲汲とする、あるいは、組織の評判や立場を優先するような場合、容赦ない議論となるが多かったと記憶しています。

佐々木先生は会計研究科設立準備副委員長として尽力し、設立後はその責任を全うするため会計研究科に移籍し、研究科長を3期6年間勤め上げました。学生応募数、会計士試験合格者数、教育事業収支など、絶えず厳しい数値目標のプレッシャーに晒されながら、会計研の安定的運営のため、努力を惜しみませんでした。会計研究科として日本一なのは当たり前で、それに新たな価値を付けるという意味で「会計プラス1」を標榜し、積極的かつ透明な人事を行い、新たな入試制度を整備し、多数の寄付講座を獲得し、最後に、日本で最初のアクチュアリーコース構想を立ち上げるなど、新しい研究科の礎

を確立しました。

これを機に、新しい世紀・時代に合う商学学術院のリーダーとなるため、佐々木先生は会計研究科長1期目に商学学術院長選挙に立候補しました。初の早稲田大学以外出身の学術院長による商学学術院改革の狼煙をあげることになりました。私も賛同し、微力ながら、商学部において佐々木先生を最大限支援しましたが、既存の牙城は高く、良い戦いでしたが、勢い及ばずという結果となりました。選挙当日の大会議室は全専任教員により超満席となり、異様な雰囲気になりました。選挙後しばらくすると、商学部の教務を含めた諸先生方の温かさと包容力により、自然とノーサイドとなりました。逆に、完全な和解が実現して、相互理解が進み、現在の新たな商学部改革に繋がったと勝手に解釈しています。佐々木先生は会計研究科長退任後、商学学術院で早稲田大学の評議員に選出され、大学理事会の動きに目を光らせています。

佐々木先生は研究科長時代の様々な業務を通じて、学内外に幅広い人脈があります。商学学術院だけでなく、ゼミのある理工学部はもとより、文学部や法学部にも知り合いが多く、学内事情に精通しています。また、早稲田大学で最初の省庁との交流事業として、大臣官房専門調査官 兼 財政金融研究所主任専門官として大蔵省（現財務省）に2年間出向しました。佐々木先生は時折「国家公務員の経験が2年もある」と自慢され、確かに、省庁内部の事情に詳しく、その方面にも重要な人脈があるようです。

私が佐々木先生に最初にお会いしたのは、私の前任校に佐々木先生が講演会に招かれたときです。その後の懇親会で、親しくお話しさせていただいて、とても楽しかったことを覚えています。さて、佐々木先生は早稲田大学以外の出身者ですが、私の知り合いの中でも最も早稲田らしい人の1人です。進取の精神、在野の精神、学の独立など、全て彼に合うものばかりです。私が勝手に思い浮かべるのは、東京帝国大学で近代経済学を収め、早稲田大学に赴任した、早稲田四尊であられる天野為之先生です。経済学の素養を一般の商家や実業家の子息に広めるため、商学部前身の商科を設立されました。天野先生は日本語で最初に書かれた近代経済学の教科書を東洋経済新報から出版し、当時のベストセラーになりました。商科設立後、大学運営を巡って意見の相違があり、早稲田実業を設立してそちらに移ったというような話を聞いています。佐々木先生のご活躍や商学学術院内での動きと比較すると、かなり似ているように思うのは気のせいでしょうか。

佐々木先生は多趣味ですが、その時々熱中するものがあります。私が知り得る限り、イタリア語、ダイビング、ドローン、コーヒー焙煎などです。また、新し物好きの面があり、特に、Apple 製品はいつも最初に新製品を購入し、iPad プロ、無線イヤホン、アップルウォッチ、アレクサなど、真っ先に使いこなしています。また、ツイッターも初期から開始して、多くのフォロワーを集め、最近、ユーチューバーとして動画配信を準備しているようです。残念ながら、今回の選択定年は研究に専念するためであり、趣味に没頭する時間はないようです。最終講義もなく、ミクロネシアの研究プロジェクトは継続するため、私の彼のご定年に対する特別な感情はありません。個人的には、これからも、引き続きよろしく願いますということだけです。ただし、「高瀬先生いる？」と研究室に寄る回数が減るかもしれないのが、ちょっと気がかりです。アフターコロナで Zoom もあるので、大した影響はないと納得しています。

おわりに、これまでの商学部・会計研究科での研究と教育のご功績に感謝の心をこめて、これまでの業績を列挙させていただきます。改めて見てみると、トップジャーナルから大衆紙まで非常に幅広く執筆されており、大学人としてのスーパースターの一面が良く表れているようです。

## 論文

- 佐々木宏夫, 讚井晃司『ネットワーク上の資源配分問題について』産研シリーズ 49「ビジネス慣習と会計制度に関する理論的および実証的研究」p.5-17 2018年06月
- Hidekazu Anno and Hiroo Sasaki, Second-best Efficiency of Allocation Rules: Strategy-proofness and Single-peaked Preferences with Multiple Commodities Economic Theory 2012年12月
- 佐々木宏夫『マッチング理論とその応用』オペレーションズ・リサーチ(日本オペレーションズ・リサーチ学会学会誌) vol.54 (No.8) p.478-484 2009年08月
- 佐々木宏夫『特集にあたって(佐々木宏夫編集「メカニズム・デザインに関する多面的アプローチ」特集)』オペレーションズ・リサーチ(日本オペレーションズ・リサーチ学会・学会誌) vol.54 (No.8) p.450-451 2009年08月
- 佐々木宏夫, 佐藤歩『非合理に見える選択行動の合理性について』産業経営 43 p.35-56 2008年11月

- 佐々木宏夫『経済数学：なぜ数学の勉強が必要なのか?』経済セミナー 636 2008年  
04月
- 佐々木宏夫『 $\Lambda$ -効率性と資源配分メカニズムの設計』産研シリーズ 38「現代経済学の  
最前線」2006年5月
- 佐々木宏夫『二階堂副包先生追悼コンファレンス開催される』経済セミナー/日本評論  
社 615 p.44-47 2006年4月
- 佐々木宏夫『初歩からの経済数学（第1回から18回まで）』（連載）経済セミナー/日本  
評論社 2004年4月（591）号から2006年9月（608）号まで
- 佐々木宏夫『経済分析と線形代数』数学セミナー/日本評論社 44(9) p.36-41 2005年8  
月
- 佐々木宏夫『角谷静夫と経済学』数学セミナー/日本評論社 44(1) p.56-60 2004年12  
月
- 佐々木宏夫『「コースの定理」とその不可能性』早稲田商学/早稲田商学同攻会 401  
2004年9月
- 佐々木宏夫『競争の有効性について：市場は万能か?』商学研究科紀要/早稲田大学大  
学院商学研究科 58 2004年3月
- 佐々木宏夫『マッチング問題とその応用：大学入学者選抜の事例』第51回シンポジウ  
ム予定稿集/(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会 2004年3月
- 佐々木宏夫『「行き過ぎた市場化」の弊害：市場万能主義を考える』調査月報/国民生活  
金融公庫 515 2004年3月
- 佐々木宏夫『戦略思考で「先を読む」！ゲーム理論』（別冊宝島 969）宝島社 2004年  
1月
- 佐々木宏夫『「先読み」の技術！ゲーム理論』（別冊宝島 831）宝島社 2003年8月
- Hiroo Sasaki, Limitation of Efficiency: Strategy-Proofness and Single-Peaked Prefer-  
ences with Many Commodities Rice University, Department of Economics  
Working Paper 2003-1 2003年
- Hiroo Sasaki, Two-Sided matching Problems with One-sided Externalities NATO  
Advanced Research Workshop: Mathematical Theories of Discrete Resources:  
Equilibria, Matchings, Mechanisms, Istanbul, Turkey. 2001年12月

- 佐々木宏夫『学者として、教育者として一故・二階堂副包先生を偲ぶ』経済セミナー/  
日本評論社 562 2001年11月
- 佐々木宏夫『初歩からのゲーム理論（第1回～第17回）』（連載）経済セミナー 2000年  
11月号から2002年3月号まで
- 佐々木宏夫『日本経済とシステム設計：序論』（責任編集）『アジアの為替レートの考察』  
（共著）フィナンシャル・レビュー 53「日本経済とシステム設計」特集 2000年4  
月
- 佐々木宏夫『Q & A これで身につく！経済学：「経済学の勉強になぜ数学が必要なので  
すか』経済セミナー/日本評論社 531 1999年4月
- 佐々木宏夫『特殊法人等が発行する非政府保証債に対する「暗黙の政府保証」について  
の一考察』（共著）フィナンシャル・レビュー 49 1999年03月
- 佐々木宏夫『大学入試をゲーム理論で考える』週刊ダイヤモンド 1998年4月
- Hiroo Sasaki, Randomized Uniform Allocation Mechanism and Single-Peaked Prefer-  
ences of Indivisible Good The Third International Conference of the Society for  
the Advancement of Economic Theory, Antalya, Turkey 1997年7月
- 佐々木宏夫『片側にだけ外部性のあるマッチング問題について』森映雄（編）「金融お  
よびそれに関連する諸問題（早稲田大学現代政治経済研究所叢書9）」早稲田大学  
現代政治経済研究所 1997年
- Hiroo Sasaki, Two-Sided Matching Problems with Externalities (with Manabu Toda)  
Journal of Economic Theory 70:1 1996年7月
- Consistency and Monotonicity in Assignment Problems (with Manabu Toda) Interna-  
tional Journal of Game Theory 24:4 1995年12月
- 佐々木宏夫『情報の偏在と分割不可能財がある経済における均衡の性質と存在条件につ  
いて』早稲田商学/早稲田商学同攻会 365 1995年10月
- 佐々木宏夫『戦後50年—「熱い正義」から「冷めた正義」へ』経済セミナー/日本評論  
社 488 1995年9月
- 佐々木宏夫『「マーケットはなぜ間違えるのか」書評』日本経済研究センター会報/日本  
経済研究センター 732 1995年7月
- Consistency and Characterization of the Core of Two-sided Matching Problems (with

- Manabu Toda) Journal of Economic Theory 56:1 1992年2月  
 Scarcity and Growth Reinterpreted: Endogeneous Technological Change and Falling  
 Prices (with Paul M. Romer) Rochester Center for Economic Research Discussion  
 Paper/University of Rochester 19 1985年  
 堀内昭義 佐々木宏夫『家計の預・貯金需要と店舗サービス』経済研究 33:3 1982年

### 書籍等出版物

- 佐々木宏夫『されどマルクス』『経済セミナー』増刊 吉原直樹(編)(分担執筆)日本  
 評論社 2018年5月  
 佐々木宏夫『ブロックチェーンをめぐる実務・政策と法』久保田隆(編)(分担執筆)  
 中央経済社 2018年3月  
 佐々木宏夫(編者)『ブロックチェーンが切り拓く未来』第25回産研アカデミックフォー  
 ラム報告書 早稲田大学産業経営研究所 2017年5月  
 佐々木宏夫『ビジネスのための経済学入門』(共著)中央経済社 2015年3月  
 佐々木宏夫『図解ミクロ経済学入門』ナツメ社 2011年6月  
 佐々木宏夫『基礎コース ミクロ経済学』新世社 2008年6月  
 佐々木宏夫『入門ビジネス・エコノミクス』(共著)中央経済社 2006年5月  
 佐々木宏夫『経済数学入門』日経文庫 1082 日本経済新聞社 2005年12月  
 佐々木宏夫『企業の経営戦略はどう変わる』川辺信雄他編『成長の持続可能性』第9章  
 東洋経済新報社 2005年6月  
 佐々木宏夫『入門ゲーム理論：戦略的思考の科学』日本評論社 2003年03月  
 佐々木宏夫『入門ミクロ経済学』(共著)中央経済社 2002年  
 佐々木宏夫(編者)『日本における効率と公平：「平等神話の崩壊」をめぐる』第7回  
 産研アカデミックフォーラム報告書 早稲田大学産業経営研究所 2001年  
 佐々木宏夫『入門マクロ経済学』(共著)中央経済社 1999年  
 佐々木宏夫『早わかり経済学入門』東洋経済新報社 1997年1月  
 佐々木宏夫『情報の経済学：不確実性と不完全情報』日本評論社 1991年3月

高瀬 浩一